

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100012		
法人名	医療法人 徳政堂		
事業所名	グループホームゆい		
所在地	岩手県岩手郡岩手町大字江刈内6-8-9		
自己評価作成日	平成21年8月1日	評価結果市町村受理日	平成21年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0392100012&SCD=370>

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1
訪問調査日	平成21年9月4日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

岩手町の中心商店街に向う道筋に、消防署に隣接した落ち着いた木造建築です。神社祭やどんと祭の催しがゆいの隣の敷地で開催され、地域の方々と一緒になって楽しむ事ができます。医療法人徳政堂の事業所の一つで往診、看護師の訪問など医療連携が充実しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○「ゆい」とか、「ゆいっこ」とは地域の言葉で、多忙な時期に近隣の人々と互いに労力を提供しあい、支えあうことを意味する言葉で、その意味にこだわって命名されており、運営や、理念にも活かされている。  
○法人内会議、運営推進会議、ミーティング等じつに詳細に記録されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人のグループホーム内と共有した理念であったが、地域密着型の意義を職員で話し合い、事業所理念を独自に作成している。実践できるよう努めている。	「私達は、入居(利用)者と家族、地域と共に寄り添い助け合いながら、元気で自立し、安定した生活を送れるよう支援します。」という、新しい独自の理念を作成し、ホーム内のよく見える場所に掲示し実践に努めている。	意義のある「ゆい」の名前を大切に実践継続して行って欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、子供会との交流、地域行事等の参加を通し、交流に努めており、地域からの協力も得られている。	地域のお祭りにも積極的に参加している。出身地ごとの高齢者「いきいきサロン」や、公民館活動にも参加して、交流の輪を広げている。また、ホームの畑で取れた野菜を隣接する消防署におすそ分けして喜ばれている。新たに地域のゴミ拾い活動にも参加を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勉強会の開催や近所の方から介護相談を受けたりと、力に応じて対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果や取り組み状況等報告し、意見をいただきながら、サービス向上につなげられるよう努めている。	2ヶ月毎の開催で、前もってテーマをお知らせする案内を出し、意見を持ち寄っていただいている。メンバーも変わっていないので、スムーズに話し合いが出来る。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、勉強会の講師役としてきていただいたりと協力体制を築けるよう取り組んでいる。	地域包括支援センターの担当者からは、権利擁護や、うつ病のテーマで勉強会の講師を引き受けていただいた。また、大きな地震があったとき、包括支援センターからすぐに電話が入り、協力体制を実感したとの職員のコメントがあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の開催と利用者一人ひとりの外出のくせや傾向をつかんで見守りし、玄関に小鳥のさえずりセンサーで感知するようになっている。外出しようとした際はさりげなく声をかけたり、同行したりしている。	身体拘束はしていない。身体拘束に関して毎年勉強会を実施している。オムツ外しに向けて、排泄シートを作成して個々のパターンを把握し、無理なく改善に向けて努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、遵守にむけ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町職員から学ぶ機会を持ち、家族会のときにパンフレットを渡し情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	極力、平易な言葉に置き換えながら理解していただけるよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートの実施や日々接する中で自らの意見や要望を出しやすい雰囲気作りに努めている。	家族アンケートは年1回実施している。家族会は年2回開催して意見や要望を聞いている。玄関には意見箱の設置もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや法人内の会議があり職員の要望や意見を反映できるよう心がけている。	ミーティングの際に出た意見や要望は、法人会議に諮(ハカ)っている。前向きに考えてもらっている。	ミーティングの内容も詳細に記録されていて分かりやすい。欠席した職員にも周知徹底を図るための手段に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則があり、事業所内での職場環境の課題を法人内の運営会議で話し、解決にむけて努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会への参加や職員の立場や経験に応じた研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会への参加や他グループホーム間での交換研修もあり、サービスの質を向上できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前調査や見学など話をする機会をつくり対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族同士の中での違いも含めて家族の体験や不安なことなど受け止め、関係性を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状態、精神等が変化した時はその都度話し合いの機会をもち、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが協働しながら和やかな生活が出来るよう場面作りや声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子を伝え、家族からは色々な情報が得られるよう努め、行事等で一緒に出かけたり、家族にも協力をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室や喫茶店を利用し、部落のいきいきサロンへも参加することで関係を継続できるよう支援している。	馴染みの美容院にも送迎をしている。出身地域ごとの「いきいきサロン」にも可能な限り、一緒に参加して馴染みの人たちとの関係を継続させるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に役割を持ち、利用者同士が支え合っている様子が自然とみられ、関係がうまくいくように職員が調整役となり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した方の面会に行き、相談があれば応じて対応するよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を聞いたり、行動を理解し安心して暮らせるよう対応している。	常に利用者の表情や、しぐさ等を見ながら、行動や便意の把握に努めている。	職員のきめ細かな対応がオムツ使用ゼロとなることに期待したい。是非、継続して行ってほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や性格を理解し対応できるよう家族からの聞き取りを行ない、行動を理解できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録、ミーティング等で一人ひとりの生活リズムと、出来る力を把握出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関りの中で、思いや意向をきき、反映させるように努め、毎月の職員ミーティングで利用者の状況を確認し、介護計画につなげている。	利用者本人や家族の意向なども入れて、全職員で計画を立て、介護計画に反映させている。家族からは確認を頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや状態変化は個々の記録に記載し、職員間の情報共有を図り、勤務開始前の確認は義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携や、通院介助、外出など柔軟に対応し、法人内のグループホーム、デイケアとも交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館、訪問理容の利用やボランティアの受入、運営推進会議を活用して地域の力をかり協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が同法人の医療機関であり、職員が定期的に受診支援している。往診もあり状態把握ができており、密接な連携がとれている。眼科、婦人科などはその都度対応している。	医師と家族の話し合いが必要な場合は、家族に付き添って頂くが、ほとんどは職員が対応している。月2回の往診と、週2回の訪問看護もあり、医療関係は密接な連携が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、看護師の訪問があり、変化に気付いたことは報告し適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の医院が協力医療機関となっており、密な連携がとれる状態となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制に関する指針を基に、職員体制、他入居者の状況を判断した上で、本人と家族の意向を尊重した対応をする事としている。	指針を基に、利用者本人や家族の意向、施設の状況等を総合的に判断して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が普通救命講習 I を受講しており、年1回は消防署の協力を得て、研修している。また、外泊や外出等に備え、家族とも一緒に研修した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の避難訓練と、定期で停電訓練等も実施しており、災害に備えて備蓄している。地域の協力体制については隣近所や運営推進会議で協力を呼びかけている。	利用者も参加して、毎月の避難訓練を実施している。夜間想定訓練も年間2、3回は実施している。訓練には運営推進委員にも協力していただいている。災害時の避難場所は家族にもお知らせしている。食糧備蓄は3日分くらい、そのほかホッカイロ、ポータブルトイレ等を準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄支援等の声掛けは入居者の誇りやプライドを損ねないよう全職員が心がけ、勉強会の機会に確認しながらケアに活かしている。	記録類は鍵の付いた保管庫に保管されている。プライバシー保護のための勉強会も、年に1回実施している。また、入浴や排泄支援に関しては本人の自尊心を傷つけないような声かけを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、表情を読み取ったり、意思を表示しやすいようチラシ利用して選択肢をつくるなど自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、できるだけ体調や行きたい所など本人の気持ちを尊重し過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの美容室の利用や行事、外出などでおしゃれや化粧をする機会をつくり、さりげなく鏡やくし等を渡して身だしなみを整えてもらえるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の準備をおこない、旬のものや畑の野菜を食材としている。ドライブを兼ねた外食なども支援している。	食材の買出しも交代で、職員と出かけている。ときには好みのものを前をもらい、楽しむこともある。花見や紅葉狩りに出かけた機会に、外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算など病態に応じ、栄養士からの指導を受けている。摂取量を記録し、食事量を個々に合わせ、体調、運動量、食べるタイミング、介助、声掛け等工夫し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の個々の状態に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくオムツの使用を減らせるよう、排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで用を足せるよう工夫し、支援している。	排泄シートを作成し、毎日時間を決めて記入することで個々のパターンを把握し、トイレの誘導に結び付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳製品や食物繊維の多い食事提供に努め、体操、散歩等体を動かす機会を設けている。やむおえない場合は個々の状況に合わせて下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節に合わせてゆず湯にしたり、個々に合わせた誘導、対応の工夫をし、仲の良い方同志や職員も一緒に着替えたりと安心感をもてるようにしている。	以前は複数でなければ不可能だった入浴も、対応の工夫により、一人の入浴を楽しんでいる人もいる。一人ひとりに合わせた誘導に心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の疲れ具合にあわせ個別に休息を取り入れたり、なるべく日中の活動を促し生活リズムを整え夜間に眠れるよう整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握できるよう服薬ファイルを用意しており、共有、確認をしながら支援している。心身の確認をし、副作用がみられるような場合は医療連携にてすぐ対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で個々の力を発揮してもらえるようにし、自宅への外出や花札など一緒に楽しむようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行困難な方も一緒に買物や行事、外食等、戸外へ積極的に外出している。また、家族と楽しめるようドライブを企画したり、支援している。	出来るだけ、みんなが施設の外に出られるように工夫をしている。買い物ごとのドライブを楽しんだり、年2回の家族とのドライブも楽しめるように計画を立て、実施している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理しているが、家族の協力を得て、小額のお金を持っている方もいる。買物に出た時やパン屋、ヤクルト屋が来所した時などなるべく自分で支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて家族や知り合いの方に電話が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の壁面には行事や家族、近所から提供していただいた写真が飾ってある。ホールには季節の花や装飾をしており、五感に働きかけ、不快や混乱のないよう配慮している。	施設全体が新しい造りとなっていて、ゆったりとしたスペースで利用者也職員も使いやすくなっている。ホールには大きな花の写真や、施設の行事の写真が飾ってあり、温かさが満ちている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや小間があり、その時の気分に応じた居心地を確保できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは自由としているが、タンスはゆいのものを使用している方が多い。家族会で馴染みの物の持込をしてもらえるよう話をし、造花や家族写真を持参してくれている。本人の意向を確認しながらなるべく居心地よく過ごせるよう努めている	クローゼット、たんす、ベットは備え付けのものを使っていて、どの部屋も、こざっぱりと整理されている。家族の写真や、孫に似ているからとF1レーサーの大きなポスターを飾っている部屋もあった。どの部屋もゆとりのあるスペースになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に合わせ、目印を表示したり、状況にあわせて環境整備につとめている。		